（三十日夕刊）
磐城新聞
休刊　大祭日、第一第三日曜
定價（壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵稅十錢）
廣告料（雜報欄行五十錢　場所指定二十錢増）
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

總選擧に際りて

日本民族の自覺を促がす

雲井鏡次

さて、自由なる思想はギリシヤ時代から存在すると書物に書いてあるがわれ／＼は人類發生の頭初からあるものと信ずる、人類が禁斷の果實を食つたのは一種の自由思想からであらう唯だ政治的の自由論などは餘程のちになつて社會組織の波瀾によつて生じたものと思ふ。然らば自由とは何であるか、無教育な連中に質問すると

「自由とは何事によらず己れの欲することを行ひ得ることである」と、つまり放縱即自由、自由即放縱と解してゐる。少し進んだものになると、

「凡そ禁ぜられない事は何をやつて宜しい、之が自由である」と、これは前のよりは少し好いが今日日本にもある三百代言式の背德行爲や、成金惡資本家などの爲す所は此のたぐゐである、人間の心の奥底に潛む良心からは、止せ、と叫ぶ餘りに非道だ、と引留めても、いはゆる耳を掩ふて鈴を盜むが如くに法律の制裁を受けないことは何でもやり、又制裁を受けないやうに惡いことをやる、のがこれである。

（七）

次に道德的の人になると

「凡て許されたることを爲すの自由が眞の自由である」之れは餘程道德的觀念に基礎を置いてゐる。第一の放縱的な自由は人の畑でも畠でも屋敷內でも住宅でも近道のためには委細かまはず通つて行かうといふやうなものであり、第二のは原則としては道を通つてやるが、「無用のもの入るべからず」とか通行止めと書いてなければそれを口實に工場でも他人の所有地でも通り[illegible]

第三は天下の公道のみを通らうといふのである、書物には、自由とは或る行爲をなし又は之を爲さず或は又他の行爲を選んで爲し得ると書いてあつてヅッと學問的である、

（八）

自由の種類の分類方法も種々あるが或る博士の說に從へば

自然的の自由
　本能又は衝動の誘發する欲求を卒直に充たす
物質的の自由
　奴隷的狀態にあらざる自由
精神的の自由
　社會國家の規律、法律等に觸れざる限り信仰、言論、契約、選擧等をなす[illegible]自由
道德的の自由
　己れの習慣と社會の制度を敬ふの自由

又之を絕對的自由、相對的自由の二つにも分けられる、絕對的自由は即ち放縱に屬するもので自墮落であり、危險であり、人間の特權を抛つ獸類に近つかんとするものである。絕對的に自由を唱導すれば必ず他人の自由と衝突する、義理とか人情とかを排し、社會的に生きて行かうと思ふ人、血あり涙ある人には決して絕對的自由など考へられない、昔から義理としがらみ、恩愛のきづな、など言つて人間の魂がそう自由に働かないやうになつてゐるのは決して因はれたる思想でも何でもない、實に美はしい人情から發する自然の自由束縛である。

一月卅一日
舊曆正月九日

▲一白　の人活氣は十分あれど氣に緩らぬ際に注意▲二黑　の人出先きに故障の源發する日萬づ進む事は凶▲三碧　の人世の雲行に卷き込まれず營々と勵むべき時▲四綠　の人氣のみ忙しくして結果は却つて面白からぬ日▲五黃　の人働きの目に見へぬとも氣を腐らすこと勿れ▲六白　の人心の角を取りて何事にも圓滿を主とすべし▲七赤　の人順調に見へても外より破れが生じ易し注意▲八白　の人上にのみ氣を奪はるれば足許は疎かになる▲九紫　の人八方に目を配り障碍除きつゝ徐進すべし

講談

闇に閃く男達

（1）

高田涙川作　尾崎雪鷹畫

口の惡い子供

「たちさん、その俵は石が[illegible]いつてゐるのか」

[illegible]

いかにもたくましい十歲ばかりの男の兒である

此所相州茅ケ崎の濱邊、附近の百姓が江戶へ積み出す米の俵を扱つてゐるのだ子供に聲をかけられて百姓の一人は振り向いた。

「たゞ誰かと思つたら手前金五郎ぢやねへか、何を馬鹿なことを言つてゐるのだこんな綺麗な俵へ誰が瓦や石を入れるものかい、こりや御江戶へ送る新米の走りが入つてゐるんだよ」

「フム……その新米の走りは一俵で百貫もあるのかい」

子供は何もへらず口をたゝくのである

「コン畜生……馬鹿なことをしひやがつて、どうして新米が百貫、五十貫もあつて堪まるかい、この俵は一俵で十七八貫もあるだろうよ」

「アハ……、たちさん己アまた百貫も百五十貫もあるのかと思つてゐたのだ、たちさんらがあまり重さうにしてゐるから……そ[illegible]ると、おぢさんらは弱いものだなア……まつたく人間の食ふやうなものは食つたことはねへのだろう」

「この野郎、子供のくせにこんな口の惡い野郎があるだろうか、己等はなア毎日野猿の牙のやうな結構な一等米ばかり食つてゐるんだ手前こそ貝から拾ひのくせにろくでもねへものばかり食つてゐるのだろう……」

「そんならおぢさん、お前らはそんな結構なものを食つてゐて、なんでその俵がそんなに重いのだ、こゝで見てゐると、かついてゐるのか、俵と相撲とつてゐるのか、わからねへ、本當におぢさんらは人間のかす見たやうなものだなア」

「本當にこんな口の惡い野郎はゐるもんぢやねへ、金五郎手前そんな[illegible]ことをいひやがつて、この俵を一寸でも地からはなすことが出來るならやつて見ねへ」

「そりや、たちさん、己アまだ十だ地から一寸はなれるやら五分はなれるやら物尺でも持つてこなきや分らねへが、そんな輕いものならかつげないことはなからう」

「こ野郎、口から先に生れやがつたか、まだ尻の[illegible]つついてゐる小僧のくせに、その頰げたはなんだ、かつけるものなんかついて見よ」

「アハ……、己にそれをかつがしておいて、ついでに船へ積んでくれ、手前は元氣な小僧だ、位で逐ひ拂ふと思つてゐるのだろう、おちちんマアさんなことは眞平御免だ」

「この野郎、己らの言ふことを皆知つてやがる、それぢやどうするといふのだ」

「どうもねえ、首尾よくかついたらその米を己にくれるなら隨分、かつがねえこともねえ」

「フム、そいつは面白い、ヨシ手前がかついたらその米を手前にやろう」

「ヨシッ、そんならたちさん氣の毒だがその俵を二俵一緒にくゝつてくんねへ」

「どうするのだ」

「どうしてもいゝよ、己がかついで貰つて歸るのだ」

「本當に開いた口が塞がらねへ、一俵さへ十何貫あるものを二俵くゝつてかつぐことが出來るものか、ハア己らに俵をくゝらせておいてその間に笑つて逃げる氣だな、そんなことを食ふやうなものは一人もねへよ」

「なんでもいゝ己がかついたら貰つてかへるし、かつげなかつたら貰つてかへらねへまでだよ」

「ヨシ／＼、どんなことをするか一番手前のいふとほりにしてやろう、その間に逃げようとしたつて逃しやしねへぞッ」

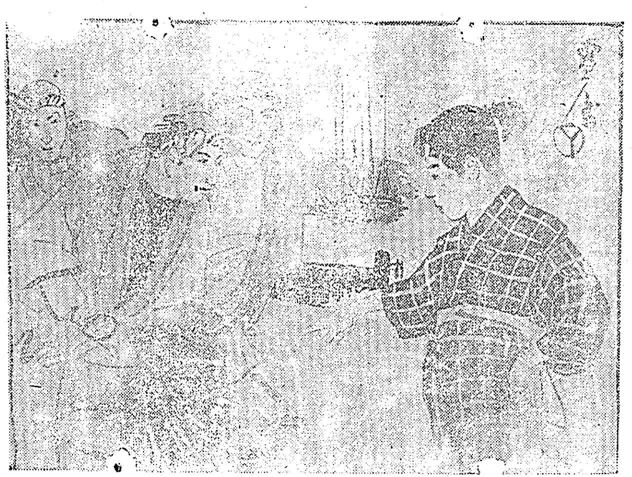
子供の金五郎は何にもいはずニコ／＼笑ひながら百姓が二俵の米を一くゝりにするのをヂリと見てゐたがやがて荷造り出來ると

「サア、金五郎荷造りが出來たこれを手前どうするといふのだ」

百姓はいきまく金五郎は騷ぎもせず

「おぢさん、も一度聞いておくが、いよ／＼己がこれをかついだらこの米はくれるだなア」

「知れたことよ、手前がかついたら用捨はねへ、默つてもつてかへつたらいゝだろう」



ナフトール
着尺
着尺モスリン
模樣名仙
平　龜田屋
電五七

廣告

御料理
鰻蒲燒
仕出し
平舘際り
魚榮
電話四二四番

[illegible]
御需めの方は
平白銀町
吉田新聞店へ
電話四十八

御宴會
新年會
御婚禮
特にご勉強いたします
割烹　末廣
電話四三一

宮內省御用達
ヒゲタ醤油
九升樽詰
二リットル壜詰
銚子醤油株式會社
特約店
平田町
廣瀨支店
電話五四番

壽麻山
中風靈藥
定價　一週分九〇　二週分一、七〇　三週分二、五〇
動脈硬化症、腦溢血、半身不隨、言語難澁、其の他中風より起れる諸症に偉効を奏す
……是非御試用を勸む……
代理店
平町五丁目角
山野邊藥局

蜂ブドー酒
團欒への一杯！
賓客への一杯！
健康への一杯！
品質本位
美味＝最も芳醇にして萬人の嗜好に適し
滋養＝最も豐富にして氣力と体力を增す
近藤利兵衛商店
2-60

日東のラジオ
最新高級の
ラジオ製造販賣
並に部分品提供
ラジオ受信機販賣開始後僅カ一ケ月以內ニモ拘ラズ到ル處賞讚ト好評ヲ得候
重ナル御買上先
入山採炭株式會社殿　大倉無煙炭坑殿
平新川町〇百材木店殿　平鎌田岡田牛乳店殿
平田町日本健築紙工業殿　平鐵道官舍殿
玉鬪村玉ノ井酒造店殿　平町〇福商店殿
御用命次第店員をお伺ひ致させ懇切御相談に應じます。
平町白銀町
日東商會
電話四二八番

外科
外科、耳鼻咽喉科
內科、泌尿器科
X光線科
赤心堂病院
平町字田町
電話四七五

貸地廣告
平町郡役所より稅務署附近の新開地に一千餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絕對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり蒐けば社員がお伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話　六〇三番　五四一番

民政黨苦し紛れに
佐川潔氏に不利な宣傳
山田忠正氏も石城を根據に
政戰漸く實戰に入る

石城郡に於ける總選擧戰は日を逐ふて濃厚の度を加へ漸く實戰に入らんとしてゐるが、殊に第三區混戰から出馬した政友派松本孫右衞門、平村猪狩治爾氏は廿八日供託局にそれぞれ供託金を濟ませ立候補屆出を終へ選擧戰に着手したが準民政の中立を標ぼうして出馬し、好間村出身縣議士佐川潔氏はまた本縣昨報の如く廿七日[illegible]ともに立候補を宣し廿八日供託金を積み立候補の屆出を終へいよいよ第三區の政戰は火ぶたを切られた、なほ平町出身の荒井精一氏は廿七日上京の途、久保田の自宅に入つたが準政友の中立を標ぼうして出馬すべく意を決し一兩日中に立候補の屆出をなし更に双葉郡刈野村出身山田忠正氏は準民政黨を標榜 之れまた立候補に決したが山田氏は 皇室中心主義を標榜する建國會を根據に主として石城郡に飛躍すべく內鄉村磐城炭礦に在る建國會磐城支部に交渉中と宣傳へられてゐる、建國會は山田氏と深い關係にある思想團体にして表面政治運動は絶對になし得べからざるも個人的に相當、聲のあるべきは想像に難からぬものがありその因つて來る所恐く比佐昌平氏の難色を深 めつゝあるが石城民政黨一部の連中は佐川潔氏の正式立候補に極度の狼狽をなし佐川氏が恰も軍資金の逼迫から中途休戰の悲境に陷るものの如く吹聽し以て同氏の當選を妨害せんとしてゐるが事實は然かも數萬圓の資金を整ひ更に餘猶綽々たるものあり平町驛前新道通り元牧原眼科醫院跡を選擧本部とし石城民政黨幹部にして本郡盤崎村の重鎭四家秀和氏を選擧事務長とし民政黨 攫り拔き の有力家を[illegible]網羅し二月一日より決死の勇を鼓し玉碎主義を以て實戰に移る事となつたが民政黨一部の者が所謂窮鼠猫を噛むの筆法から徒らに佐川氏の當選を妨害する如き言動に出ずる場合は斷乎として法の裁きに俣つべく一切の方針と準備を整ひ第三區の政戰は頗に緊張味を加へて來た

錦農業講習
三月十三日開催

錦村農會では來る三月十二日十三日の兩日に亘り同村小學校で農業講習會を開催する事になつたが講師は郡農會大山師外數名である

去年より增加する
春蠶掃立枚數
昨年は二萬五百餘枚
石城養蠶狀況

石城郡地方は最近著しく養蠶業が發達し昨年中掃立枚數は二萬五百三十九枚此の收繭高は二十萬貫に達してゐる、養蠶家の數も亦非常に增加し昨年末現在で六千四百四十九名の多きに、養蠶郡として知られてゐる信達方部に劣らない狀態にあるので石城郡養蠶同業組合では斯くの如く養蠶發達して來た際に更に養蠶家が利益を得益々養蠶を發達せしむる一方法として組合製糸工場設立の計劃をたて石城郡町村設

選擧の心得（四）
之れたけは忘れるな

◎選擧權と被選擧權に就て

(一)選擧權 年齡滿二十五歲以上の男子は原則として選擧權があるのであります。但年齡二十五歲以上の男子でも禁治產者その他法律の定めてある種の者(法第六條七條)には選擧權を有せしむることは適當でない爲めに選擧權が與へてないのであります。

改正前の選擧法では一定年月間一場所に住居を有することが選擧資格の要件でありましたけれども改正法ではこの要件を必要としないことになつたのであります、併し投票をするには選擧人名簿に登錄せらるゝには名簿調製の日まで同一市町村に一年以上引續き住所を有することが必要であります。

(二)被選擧權 年齡滿三十歲以上の男子は原則として被選擧權があります。但法律に定めたある種の者(法第六條、七條、八條、九條)については被選擧權がないのであります。

選擧權の行使は選擧人名簿に登錄せられてゐることが必要でありますが被選擧權については選擧人名簿に登錄せられてゐることを必要としないのであります。

◎投票に就て

選擧のために投票するには概左の事柄を心得て居ねばなりませぬ

(一)選擧權があつて且選擧人名簿に登錄せられた者でなければ投票することが出來ませぬ。たとへ選擧人名簿に登錄せられてゐても、實際上選擧權がなくなつた人は投票してはなりません

(二)投票所へは選擧の當日投票時間內、即ち午前七時から午後六時までの間に往かねばなりませぬ

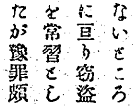
(三)投票所へは自分が行かねばなりませぬ

(四)投票する前に先づ選擧人名簿と對照して貰はねばなりませぬ

(五)投票は投票所から貰つた投票用紙に自分で議員候補者一人の氏名を書いて投票函に入れるのであります、議員候補者の氏名は漢字でも假名でもどちらで書いても差支ありませぬ

(六)投票用紙に議員候補者でない者の氏名を書いたり、二人以上の議員候補者の氏名を書いたり、又は自分の氏名や、其の他のこと例へば候補者氏名の下に「へ」「に」の類の文字を書いたりすると、その投票は無効になります

不在者投票の規定に依る投票についても、投票の心得は右の通りでありますが、その投票をするについては豫め自分の屬する投票所の投票管理者に其の旨を申出でて投票用紙と投票用封筒の交附を受け、特別投票管理者(船長又は業務主任)の管理する投票記載所で投票を記載し投票用封筒に入れて之をその特別投票管理者に提出するのであります、なほ點字に依り投票せんとする人は投票所に往つた時に投票管理者にその旨を申出でねばなりませぬ。



長會、石城販賣利用組合相圖り資本金百萬圓の工場設立發起者となつて二十八日の組合總會には之を議案とし て審議したが斯の百萬圓の大會社設立の內容を見ると信州系の片倉製糸と提携共同の事業となし、一株の額面五十圓、第一回の拂込金三十萬圓の中二十五萬圓は工場その他の設備費にあて殘餘の十萬圓の運轉資金とし[illegible]業開始すれば、設立後一ケ年にして十三萬圓位の純益を株持主には一割の配當が出來ることになる由で組合とし ては此の組合製糸場設立のために努力する筈で大工場が平町を中心に設立させることになれば地方的に及ぼす利益は極めて大なるものがあるといはれてゐる

總選擧を前にして
平町の花柳界
舊正の氣分も濃く
案外豊かな景氣

平町地方は舊暦正月の松もとれ漸次屠蘇氣分も薄らいで來たが流石初春だけに隨所に相當な活況を漂してゐる、舊臘から新春へかけ忘年會やら新年會入營兵の送別會等で久方振りの黃金時代を現出した花街新田町の昨今はどうやら下火になりかけ男女一人連れの新內流し が寒夜に冴えた撥音を響かせてゐるのも一入の淋寥を感じさせる「此の二、三日急に不景氣になりました折角好いお正月だと喜こんでゐたのに此れも選擧の祟りでせう」云々と某置屋の主人がこぼしてゐたが一方鎌田や南町の色鄕は舊正月の前後を通じて年一回の書入時を當て込んでゐるだけに昨今も其の活況は他目にも 羨しい程で殊に鎌田遊廓の如きは六軒の女郎屋に連夜八十人から百人位いの登樓客があり比較的總選擧に關係のない人[illegible]客としてゐるだけにスッカリ豊かな正月氣分に浸つてゐる

御大典記念に
兩社の昇格
氏子等の喜び

石城郡玉川村、住吉神社及同郡湯本町溫泉神社は先年來何れも鄕社より縣社へ昇格の指命より同社總代兩三名は二十六日出縣より指命を受け同溫泉神社に於ても近く其筋より同樣の昇格あるものとして町民一般その日の來るのを待つてゐるが右兩社の昇格は自然今秋十月京都に於て行はせらるゝ御大典の絕好記念となるので兩町村氏子等の喜び一方ならず來るべき兩社の大祭をトし擧つて奉祝感激の赤

業[illegible]へ間に於て寄々協議計劃中である

警察部長
けふ平警察署へ
初巡視

新任中村忠充警察部長は來たる普選第一回の總選擧を控へて濱通りの初巡視のため廿九日中村着卅日は早朝自動車を馳つて中村を發し原町、浪江、富岡、四つ倉の各署を巡視し午後四時平署着の豫定であるが署長會議を控えてゐるので明日歸廳の筈であると

平稅務署の
酒母糀鑑評
成績極く良好

平稅務署管內酒造家の酒母糀鑑評會は廿八日同署樓上に開かれ審査員は仙臺稅務監督局技手福島縣商工技師小池嘉之氏其任に當つたが本年は旣に報じた如く縣聯合品評會が今秋平町に開かれる關係から是非共郡內酒造家に於て榮冠をかち得んと意氣込み東北の銘醸地たる秋田地方から特殊技能を[illegible]良酒釀造に意を注ぎつゝある際とて從來の成績に比し審査結果は未だ判明しないが一般に頗る良好成績を示した、因に出品點數は酒母六十一點、糀三十七點であつたと

來月開設する
漁撈講習會
講習生四十名

本縣に於ける沖合漁業の漁船構造冷藏とを漸次改善されつゝあるが漁業の規模の擴張に伴ひ經費の膨大の漁獲これに伴はないので動もすれば經營難に陷るの現狀にあるのでこれが善所策として漁船長に對し簡易漁撈講習會を二月十二日迄三日間開放し航海運用術、腐敗豫防法、天體觀測法等に就き講習することゝなつた講習生は縣內發動機船取扱者四十名、講師には大日本水產講習所の戸田技師を招聘し橫田水產技師中村漁撈主任技師で四月中には海事局で選拔試驗が執行される豫定である

妻を置き去つて
放浪の偽大盡
湯本おかめで豪遊中
平署餘罪取調中

平署の森刑事が二十八日の午後一時頃湯本町三函通附近を密行中同町料理店たかめ樓に登樓し數名の女を侍らし大盡遊をしてゐる二十五六才前後の擧動不審の青年を發見取調べたところ懷中には一文の所持金もないので愈々 不審を抱 き本署に引致嚴重取調べた結果此奴は當時住所不定無職自稱長野縣下伊那郡龍井村大字今田生れ木下民三(三五)で數年前鄕里を出奔し各地を土工となつて放浪中昨年一月頃神奈川縣津久井郡與瀬町砂利販賣業福島サトの養女サヨ(二四)と馴染みサト名儀で同地數軒から現金五十圓を詐取しサヨと手を取つて驅落東京市小石川區に 婦夫氣取 の新世帶をもつたがサヨが姙娠したので無情な民三はサヨに嫌氣が差し八月中サヨを置去つたまゝ當地方に流れ込んで來たが仕事のないところから前後數十回に亘り窃盜を働き無錢遊興を常習としてゐた旨自白したが餘罪頗る

糀[illegible]

多く見込で更らに取調を進めてゐる

濱三木炭で
規約改正
不正品を嚴罰

濱三郡木炭同業組合では現在の組合規約が組合創立當時に制定されたもので、不便や不備の點があるので之が改正運動を起しつゝあるが、此の改正の要點は

△營業者は全部組合員とする事

△經費及過怠金の徵收は國稅徵收に依る事

△不正品を差押へた場合は之を破毀した者は刑法の處罰を與へる事

等であつて組合では組合聯合會本部と連らくをとり運動を續ける由である

相談所を騙して
旅費を稼ぐ男
不具疾病に化け損ね
平署で皮を剝る

最近各地の人事相談所を訪れて不具、疾病と稱して歸國旅費をねだり甚だしきに至つては哀れみを請ふて相談所を かたり行くナラズ者が多くなつて來たので各地相談所では極力警戒をしてゐるが廿八日午後二時頃平人事相談所に跛をひきながら來て淚を流して歸國旅費の貸與方を願出でた栃木縣鹽原町字大網生れ山本源平(三一)といふ青年があつたので係の片寄警部補が事情をきくといかにも氣の毒なので小野新町までの汽車賃を貸與しやうと思つて所持品を調べたところ懷中してゐた 蟇口の中 に三圓六十錢餘の現金を所持してゐたので取調べたところ同人は廿八日の午前中植田警察署に至り同樣手段で五十錢を貰ひ受けたことが判り大目玉を頂戴したがこうしたかたり者はますます多くなる傾向あるので今後嚴重調査の上貸與することとなつた

磐城日勞黨の
總選擧對策
橫山氏辭任

日勞黨磐城支部では二十七日午後二時から支部內で常任委員會を開いた結果今二十九日午後一時から黨務執行委員會を開き解散後の代議士候補として本部の三輪壽壯、田所輝明、上條愛一三氏中から候補を推薦し同時に橫山支部長の辭黨支部では候補を立てず日勞黨の候補を應援共同戰線を張ることになつてゐる

無盡魔棄却
保太郎懲役一年

平町を中心に無盡詐欺をして郡內一帶に亘り數萬圓の被害を與へた當時平町材木町居住大谷保太郎(四五)は昨年末平支部にて懲役一年の言渡しを受けたので之を不服とし宮城控訴院に控訴中であつたが二十七日理由なしとして原刑により懲役一年を言渡された

赤井嶽藥師へ
十二神將の銅像
殊勳者や有志の發起で
御大典記念事業

石城郡赤井村中島彬次、矢吹金吾、宮內常太郎、宮內金吾、羽賀善太郎の諸氏發起となり御大典記念として赤井嶽本堂後方斜面地に十二神將銅像を建設すべく奔走中であつたが旭裁に根本村長を會長に喜作氏を副會長に百有餘名の贊助員を得ていよ〳〵實行する事となり二十七日同村華藏院に總會を開き計畫を發表した銅像は御尊体十二体(御丈ケ三尺五寸)で鑄造は平町工藤源吉氏に依賴し建設費用は五千圓で本年十一月十日に除幕式を行ふ豫定である

入院隨意（[illegible]あり）
外科專門
平町 南町
上田外科醫院
電話一二九

電話開通
六四〇番を御利用下さい
平─湯本 平─四ッ倉 間 乘合（御三人以上はお迎ひに參上致します）
特に貸切は勉强致します
尼子自動車部
平町二丁目

所員採用
平町駐在スル至誠至勤ノ士ヲ求ム
御希望者ハ郡山局私書函貳貳號宛ニ履歷書送附セラレタシ
東京商業興信所支所
郡山市中町五
電話一〇五五番

深キ經驗ト
正シキ學理ヲ基トシテ
最新ノ設備ト
優秀ナル技巧ニ依リ
多產廉賣
益々聲價溢ル 萬年瓦
仙臺高等工業學校試驗證明
鐵道省 福島縣廳 栃木縣廳 青森縣廳 指定品
福島縣四倉町
萬年瓦工業株式會社
電話三八番

平町郊外關ノ上
土木建築請負 強口唯七郎
電話四〇一番
砂利、砂は御用命あり次第砂一升砂利一俵以上直ちに御屆けいたします